

名古屋医療圏保健医療計画 (素案たたき台)

- 各種統計データについては、原則として現時点で把握している最新の数値を使用していますが、今後の計画見直し作業の中で、適宜統計データの更新を図っていきます。
- 医療計画に記載されている具体的な医療機関名については、別表で整理しております。
- 下線部については、現行の計画から記載内容を大きく変更した箇所です。
- 「健康危機管理対策」を新規追加しております。

愛知県

目次

はじめに	3
第1章 地域の概況	4
第1節 地勢	4
第2節 交通	4
第3節 人口及び人口動態	4
第4節 保健・医療施設	7
第2章 公的病院等の役割を踏まえた医療機関相互の連携のあり方	8
第1節 総論	8
第2節 市立病院	9
第3章 機能を考慮した医療提供施設の整備目標	14
第1節 がん対策	14
第2節 脳卒中対策	21
第3節 急性心筋梗塞対策	24
第4節 糖尿病対策	28
第4章 救急医療対策・災害保健医療対策	31
第1節 救急医療対策	31
第2節 災害保健医療対策	38
第5章 周産期医療対策	41
第6章 小児医療対策	44
第7章 在宅医療の提供体制の整備の推進対策	48
第8章 病診連携等推進対策	51
第9章 高齢者保健医療福祉対策	56
第10章 歯科保健医療対策	63
第11章 薬局の機能強化等推進対策	67
第1節 薬局の機能推進対策	67
第2節 医薬分業の推進対策	69
第12章 医療安全支援センター	71
第13章 健康危機管理対策	73

別表目次

別表Ⅰ「がん」の体系図に記載されている医療機関名	1
別表Ⅱ「脳卒中」の体系図に記載されている医療機関名	3
別表Ⅲ「急性心筋梗塞」の体系図に記載されている医療機関名	4
別表Ⅳ「救急医療」の体系図に記載されている医療機関名	5
別表Ⅴ「災害医療」の体系図に記載されている医療機関名	10
別表Ⅵ「周産期医療」の体系図に記載されている医療機関名	11
別表Ⅶ「小児医療」の体系図に記載されている医療機関名	14

名古屋医療圏保健医療計画は、愛知県地域保健医療計画の一部として平成4年8月31日に初めて策定され、その後の保健医療環境の変化に対応すべく、4度の見直しを行い、県、市、医師会、歯科医師会、薬剤師会等関係者の連携のもと、その推進に努めてきています。

前回の見直しでは、医療制度改革に関連して医療法が改正されたことを受け、がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病の4疾病、並びに救急医療、災害医療、小児医療及び周産期医療の4事業について患者や市民にわかりやすい体系図を作成する等の見直しを行い、平成20年3月に公示しています。

しかしながら、今日の少子高齢化の急速な進展、慢性的な疾患や生活習慣に関係する疾患を中心とした疾病構造の変化、医療の高度化・専門化に伴う医療サービス向上に対する住民の要望の高まりなど、保健医療を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、地震、豪雨等の自然災害の発生や、新型インフルエンザをはじめとした多様な健康危機に対する的確な対応も必要になっています。

前回の見直しでは、基準病床数などについては対象とされておらず、その部分については平成23年3月までの計画となっております。

このため、今回はその部分を含めて、名古屋医療圏において一層保健・医療・介護・福祉の連携を図り、住民ニーズに応じた多様なサービスがこの地域において提供されるよう、名古屋医療圏計画を全面的に見直しました。

今回の医療圏計画の記載項目については、「地域の概況」、「機能を考慮した医療提供施設の整備目標」、「救急医療対策・災害保健医療対策」、「周産期医療対策」、「小児医療対策」、「在宅医療の提供体制の整備の推進対策」、「病診連携等推進推進対策」、「高齢者保健医療福祉対策」、「歯科保健医療対策」、「薬局の機能強化等推進対策」といった必須項目に加え、前回に引き続き「公的病院等の役割を踏まえた医療機関相互の連携のあり方」、「医療安全支援センター」を記載するとともに、新たに、健康危機への対応を図るため、「健康危機管理対策」を記載しています。

特に、医療機関における機能分担と連携により、地域の限られた医療資源を活かしていくことは、現在の多くの課題を解決していくうえで不可欠なものであり、医療圏計画全体にかかる重要なテーマとなっています。

第1章 地域の概況

第1節 地勢

当医療圏は、東経 136 度 47 分 30 秒～137 度 3 分 39 秒、北緯 35 度 2 分 1 秒～35 度 15 分 38 秒、面積 326.45k㎡（平成 21 年 10 月 1 日現在）で、本州のほぼ中央に位置しています。

南は伊勢湾北端に接して名古屋港を構成し、北から西にかけては、木曾三川によってひらかれた濃尾平野の沃野が広がり、東はゆるやかな丘陵地帯をなして遠く中部山岳に連なっています。

地形は、東部丘陵地帯の一部を除き、東高西低で、おおむね平坦となっていますが、JR 東海道線以西及び北部の庄内川沿線の一带は低温な農耕地帯となっています。特に名古屋港周辺の地域は、干拓によって造成された地域であって、いわゆる 0メートル地帯が広がっています。

第2節 交通

当医療圏の交通の特徴は、鉄道については、JR線、名鉄線、近鉄線、市営地下鉄があり、また、市バス等も整備されていますが、(財)運輸政策研究機構作成の都市交通年報（平成 20 年版）によると、都市交通機関として重要な役割を果たすべき鉄道（当地域では、JR線、名鉄線、近鉄線、市営地下鉄）の占める輸送人員の割合は 22.8%であり、東京 76.0%、大阪 58.3%と比べると著しく低く、典型的な自動車交通体系となっています。

第3節 人口及び人口動態

1 人口

人口の推移を国勢調査にみると（表 1-3-1）、昭和 45 年の調査で初めて 200 万人を超えた後、平成 2 年調査まで増加していましたが、大都市周辺市町村への転出が顕著になるいわゆるドーナツ化現象が生じ、平成 7 年の調査では人口が減少しました。しかし、平成 12 年には再び増加に転じ、平成 17 年以降もその傾向が続いています。

人口構成の変化では、年少人口の減少と老年人口の増加が進み、平成 21 年の構成比では、年少人口が 13.0%、老年人口が 20.6%になっています。

また、将来の推計人口をみると、平成 27 年には、65 歳以上の高齢者の占める割合が、総人口の 24.8%になると想定されています。

各区の人口は、緑区が最も多く、増加率をみると、緑区、守山区といった周辺区に加え、東区、中区等の中心部においても人口増加が著しくなっています。人口の減少は、南区で著しくなっています。（表 1-3-2）

表 1-3-1 名古屋市の年齢 3 区分別人口の推移

調査時期	総人口	年齢 3 区分人口		
		0～14 歳 (年少人口)	15～64 歳 (生産年齢人口)	65 歳以上人口 (老年人口)
平成 7 年(1995)	2,152,184	326,078 (15.2)	1,544,859 (71.8)	273,397 (12.7)
12 年(2000)	2,171,557	303,272 (14.0)	1,506,882 (69.4)	338,795 (15.6)
17 年(2005)	2,215,062	293,405 (13.2)	1,492,010 (67.4)	408,558 (18.4)
21 年(2009)	2,257,888	293,965 (13.0)	1,476,702 (65.4)	466,152 (20.6)
27 年(2015)	2,224,611	254,848 (11.5)	1,417,762 (63.7)	552,000 (24.8)

資料：国勢調査（総務省）、平成 21 年は平成 21 年 10 月 1 日現在の推計人口（名古屋市）

平成 27 年は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成 20 年 12 月推計）

注：総人口には年齢不詳者を含む。（ ）は%

表 1-3-2 世帯数と人口

(平成 21 年 10 月 1 日現在)

区分	面積 (k㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	人口密度 (人/k㎡)	平成 17 年 国勢調査 人口 (人)	平成 17 年～平成 21 年の人口増減	
						増減数 (人)	増減率 (%)
全市	326.45	999,717	2,257,888	6,916	2,215,062	42,826	1.9
千種	18.24	77,877	158,047	8,665	153,118	4,929	3.2
東	7.71	36,717	72,629	9,420	68,485	4,144	6.1
北	17.56	73,862	166,054	9,456	166,441	△387	△0.2
西	17.90	64,097	144,639	8,080	143,104	1,535	1.1
中村	16.32	66,334	135,383	8,296	134,576	807	0.6
中	9.36	45,014	75,235	8,038	70,738	4,497	6.4
昭和	10.93	52,546	105,823	9,682	105,001	822	0.8
瑞穂	11.23	47,722	105,408	9,386	105,358	50	0.0
熱田	8.16	29,380	64,249	7,874	63,608	641	1.0
中川	32.01	90,792	221,224	6,911	215,809	5,415	2.5
港	45.67	61,168	151,490	3,317	151,872	△382	△0.3
南	18.47	61,748	142,020	7,689	143,973	△1,953	△1.4
守山	33.99	65,180	166,814	4,908	161,345	5,469	3.4
緑	37.84	85,670	228,839	6,048	216,545	12,294	5.7
名東	19.44	70,528	160,307	8,246	157,125	3,182	2.0
天白	21.62	71,082	159,727	7,388	157,964	1,763	1.1

資料：名古屋市の世帯数と人口（愛知県人口動向調査）

2 人口動態

平成 20 年人口動態のそれぞれの率を県と比較すると、出生率は低く、その他の率は高くなっています。（表 1-3-3）

表 1-3-3 人口動態総覧

(平成 20 年)

	実数			率		
	名古屋市	愛知県		名古屋市	愛知県	差
出生	20,455	71,029	(人口千対)	9.1	9.9	△0.8
死亡	18,466	56,036	(人口千対)	8.2	7.8	0.4
乳児死亡	68	207	(出生千対)	3.3	2.9	0.4
新生児死亡	28	87	(出生千対)	1.4	1.2	0.2
死産	504	1,615	(出産千対)	24.0	22.2	1.8
周産期死亡	105	313	(出産千対)	5.1	4.4	0.7

資料：人口動態統計（厚生労働省）

注 1：死産率における出産数は死産数に出生数を加えたもの。

注 2：周産期死亡率における出産数は妊娠満 22 週以後の死産数に出生数を加えたもの。

(1) 出生

平成20年の出生数は20,455人、出生率9.1となっています。年次推移でみると、出生数、出生率ともに年々低下しておりますが、平成20年には若干増加に転じています。県と比較すると、出生率、合計特殊出生率ともに低くなっています。(表1-3-4)

表1-3-4 出生、合計特殊出生率の推移 (平成20年)

	出生数		出生率(人口千対)		合計特殊出生率	
	名古屋市	愛知県	名古屋市	愛知県	名古屋市	愛知県
平成7年	21,013	71,899	9.8	10.6	1.34	1.47
12年	20,760	74,736	9.6	10.8	1.26	1.44
17年	19,046	67,110	8.8	9.4	1.21	1.34
20年	20,455	71,029	9.1	9.9	1.35	1.43

資料：人口動態統計(厚生労働省)

注：合計特殊出生率は、その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当するもの。

(2) 死亡

平成20年の死亡数は18,466人、死亡率は8.2となっています。年次推移でみると、死亡率は年々徐々に高くなっています。(表1-3-5)

表1-3-5 死亡の推移 (平成20年)

	名古屋市		愛知県	
	実数	率(人口千対)	実数	率(人口千対)
平成7年	14,353	6.7	42,944	6.3
12年	15,143	7.0	45,810	6.6
17年	17,396	7.9	52,536	7.2
20年	18,466	8.2	56,036	7.6

資料：人口動態統計(厚生労働省)

平成20年の主な死因別死亡数を平成17年と比較すると、一部に順位の変動がありますが、上位3位を占めている三大死因は変わらず、平成20年では死亡総数の56.9%となっています。(表1-3-6)

表1-3-6 主な死因別死亡数、率 (平成20年)

死因	実数				死亡率(人口10万対)			
	平成17年		平成20年		平成17年		平成20年	
	名古屋市	愛知県	名古屋市	愛知県	名古屋市	愛知県	名古屋市	愛知県
総数	17,396	52,536	18,466	56,036	785.4	724.2	821.5	757.4
悪性新生物	5,431	15,876	5,703	17,049	245.2	218.8	253.7	230.4
心疾患	2,989	8,767	2,829	8,419	134.9	120.8	125.9	113.8
脳血管疾患	1,855	6,196	1,969	6,011	83.7	85.4	87.6	81.2
肺炎	1,490	4,862	1,736	5,315	67.3	67.0	77.2	71.8
不慮の事故	597	2,064	573	1,987	27.0	28.5	25.5	26.9
自殺	479	1,466	460	1,441	21.6	20.2	20.5	19.5
老衰	331	1,431	479	1,804	14.9	19.7	21.3	24.4
腎不全	340	926	342	1,005	15.3	12.8	15.2	13.6
肝疾患	267	732	270	768	12.1	10.1	12.0	10.4
慢性閉塞性肺疾患	209	586	211	594	9.4	8.1	9.4	8.0
その他	3,408	9,630	3,894	11,643	153.9	132.7	173.2	157.4

資料：人口動態統計(厚生労働省)

第4節 保健・医療施設

地域住民の健康の保持及び増進を図り、地域保健対策を総合的に推進するため、専門的かつ技術的な拠点として市内16区毎に保健所が設置されています。

また、医療施設では、病院132、診療所2,002、歯科診療所1,427、助産所65、薬局1,016が設置されています。(表1-4-1、表1-4-2)

表1-4-1 医療施設数 (平成21年10月1日現在)

区分	保健所	病院	診療所	歯科診療所	助産所	薬局
全市	16	132 (54)	2,002 (10)	1,427	65	1,016
千種	1	12 (3)	167 (-)	125	5	74
東	1	4 (1)	96 (-)	70	4	44
北	1	10 (4)	130 (1)	91	4	67
西	1	6 (2)	111 (2)	85	2	65
中村	1	11 (4)	207 (-)	133	1	77
中	1	11 (4)	239 (-)	162	1	80
昭和	1	8 (3)	109 (-)	83	2	57
瑞穂	1	8 (3)	92 (1)	69	4	47
熱田	1	5 (2)	60 (-)	38	5	36
中川	1	14 (7)	120 (-)	92	5	80
港	1	5 (3)	84 (1)	59	1	51
南	1	13 (4)	92 (-)	73	4	74
守山	1	9 (5)	101 (-)	63	9	65
緑	1	4 (2)	144 (-)	103	8	80
名東	1	8 (5)	130 (1)	96	5	61
天白	1	4 (2)	120 (4)	85	5	58

資料：病院名簿（愛知県健康福祉部）、薬局は薬事行政概要（愛知県健康福祉部）

注1：()は療養病床を有する施設数（再掲）

注2：薬局は平成21年3月31日現在

注3：診療所には保健所の数を含む。

表1-4-2 病床数 (平成21年10月1日現在)

区分	病院					診療所
	一般病床	療養	精神	結核	感染症	
全市	16,941	3,841	4,612	178	12	1,659 (97)
千種	1,466	129	561	-	10	35 (-)
東	253	81	-	-	-	70 (-)
北	803	261	223	-	-	199 (12)
西	867	109	-	-	-	226 (12)
中村	1,632	469	345	-	-	53 (-)
中	1,509	255	50	-	-	126 (-)
昭和	2,178	145	229	-	2	73 (-)
瑞穂	1,140	99	36	-	-	96 (18)
熱田	613	205	-	-	-	9 (-)
中川	1,602	578	673	-	-	149 (-)
港	920	197	-	-	-	85 (9)
南	1,846	317	486	30	-	32 (-)
守山	342	324	1,502	-	-	67 (-)
緑	533	126	-	-	-	140 (-)
名東	660	207	-	148	-	125 (16)
天白	577	339	507	-	-	174 (30)

資料：病院名簿（愛知県健康福祉部）

注：()は療養病床再掲